

<報道発表資料>
(府同時)

令和7年6月12日
きょうと生物多様性センター運営協議会
京都市環境政策局環境企画部環境保全創造課

森・里・街・川のつながりを学ぶ自然観察会 「たんぼのいきものツアー」の開催及び参加者募集

きょうと生物多様性センターでは、京都の伝統・文化や暮らしを支えてきた「京都の自然の恵み」を守り、次世代につないでいくため、様々な取組を展開しています。

今年度は、「森・里・街・川」のつながりをテーマに、各エリア間をつなぐ体験を通して、参加者や保全団体が生物多様性や流域の広がり的重要性について考えるきっかけとなるような自然観察会を複数回にわたって実施します。その第1回目にあたる「たんぼのいきものツアー」の開催にあたり、参加者を募集します。

【開催概要】

- 名 称：たんぼのいきものツアー
- 日 時：令和7年7月6日（日） 10時30分から15時まで
※雨天の場合は7月13日（日）に延期します。
- 会 場：サーキュラーかめおかラボ（京都府亀岡市保津町下中島 59-1）及び
一般社団法人亀岡オーガニックアクションの田んぼ（亀岡駅北側）
- 内 容：

（午前の部）田んぼの生きものに関するお話＜講演＞

10:30～
12:00

①アユモドキからみる里と川の手ながりについて

アユモドキは田んぼから流れ出るエサを食べて大きく育ちます。田んぼでお米が作られることによって、生きものたちにどう影響していくのか、みんなで考えてみましょう。

②「お米ってなんだろう」稲の成長と田んぼの生きものについて

稲の成長とともに、田んぼ周辺の自然環境は大きく変化していきます。生きもの探しを通じて「お米ってなんだろう」ということをみんなで考えてみましょう。

（午後の部）生きものツアー＜観察会＞

13:00～
15:00

田んぼの生きものを観察しよう！

田んぼに行って、生きものを見つけて観察しましょう。有機農業ならではの生きものとのつながりが見られるかもしれません。

【講師情報】

- ・宇野 洋平氏（NPO 法人 亀岡人と自然のネットワーク理事）
京都府亀岡市在住。亀岡の自然に魅了され、同 NPO に所属し生き物の保全活動を行う。
- ・飯村 茂樹氏（自然写真家）
滋賀県草津市在住。約 40 年の間、野生動植物の撮影を続けている。

● 申込み

- ・受付期間：令和 7 年 6 月 13 日（金）から 7 月 4 日（金）まで《先着順》
- ・申込方法：以下の申込フォームから申込み
<https://forms.gle/TfPSZTsFQ6u3PpJ66>
- ・定 員：30 名〔親子 15 組〕程度

● アクセス

サーキュラーかめおかラボ（Circular Kameoka Lab）
（JR 嵯峨野線「亀岡駅」北口から徒歩約 5 分）
※近隣に駐車場はありますが、可能な限り公共交通を御利用のうえお越しく下さい。

● 持ち物

昼食、水筒、帽子、運動靴、長靴、タオル、着替え など
※田んぼや水路の近くを歩きますので、濡れたり汚れたりしてもいい恰好で御参加ください。
※網や虫かごなど観察に必要な物品は事務局が用意します。

● 運営

主催：きょうと生物多様性センター
共催：京都府、京都市
協力：（一社）亀岡オーガニックアクション

<きょうと生物多様性センターの概要>

生物多様性に関する情報を正確かつ継続的に把握し、収集された知見を基に、生物多様性に係る理解促進や担い手育成、地域や企業の保全活動の支援等を行うとともに、保全に係る様々な主体の連携・協力関係を構築することを目的として、京都市と京都府との協働で設置し、運営しています。

<30by30 目標達成に向けた取組について>

世界では依然として生物多様性の損失が続き、早期にそれを食い止め、むしろ増大させなければ、取り返しのつかない事態になることが危惧されています。こうした中、30by30 等の達成に向けた機運の醸成と具体的



京都市は 30by30 目標の達成に向けて取り組んでいます

な取組の促進を図るため、有志の企業・自治体・団体による「生物多様性のための30 by 30 アライアンス」が発足。本市は令和5年7月に参加し、30 by 30 目標の達成に向けて取組んでいます。

<お問合せ先>

本事業に関するお問合せ先

きょうと生物多様性センター

Eメール：contact@kyotobdc.jp

電話：090-4496-3912

報道機関からのお問合せ先

京都市環境政策局環境企画部環境保全創造課

電話：075-222-3951